

政策調整会議の概要

開催日：平成 20 年 9 月 11 日（木）

項 目

- 1 平成 20 年度全国学力・学習状況調査結果の報告について【教育委員会】
- 2 県政改革の具体的な取り組みの案について【総務部】
- 3 その他（「モネの愛した浮世絵展」について【商工労働部】）

内 容

- 1 平成 20 年度全国学力・学習状況調査結果の報告について【教育委員会】
教育委員会から、平成20年度全国学力・学習状況調査の結果について、資料を配布のうえ報告があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・本年 4 月 22 日に小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施。県内では公立小学校 245 校、公立中学校 119 校が参加。
- ・小学校の国語 A（知識を問う）の平均正答率はほぼ全国平均並みだが、国語 B（活用力を問う）は全国平均よりやや低い。＜ A、B の内容については以下同じ＞
- ・中学校の国語は A、B とともに全国平均より低い。
- ・小学校の算数 A はほぼ全国平均並み（わずかに高い）で、算数 B は全国平均よりやや低い。
- ・中学校の数学は A、B とともに全国平均より低い。
- ・総じて B 問題が低く、習得した知識や技能を活用する能力の低下が全国的にも問題となっているが、本県は全国平均よりも低い結果となっている。
- ・全国順位では、小学校は昨年度と同様に全国の集団の少し下の辺りで、中学校は国語、数学ともに 46 位となっている。
- ・中学校が全国でも下位にある大きな要因の一つとして、家庭学習の時間数が全国平均よりも少ないことが考えられるため、7 月に策定した「学力向上・いじめ問題等対策計画」において重点的に取り組みを進めていくこととしている。粘り強く徹底することで、4 年後には全国水準に到達したいと考えている。

【主な意見】

- ・多くの市町村長が学力テストの結果を知らなかった。一義的には教育委員会の問題であるかもしれないが、首長も巻き込み、市町村を挙げての取り組みにしていかなければならないのではないかと。（副知事）
- ・市町村ごとの点数などは公表しないのか。
文科省での取り扱いとして、過度に競争を煽らないようにするためにも、都道府県では公表しないことになっている。
- ・学力云々以前に、生活環境が非常に厳しい児童が増えてきている。家庭環境にも配慮した学力向上対策なども考えてほしいと思う。
放課後子どもプランとして、様々な取り組みを進めているので、気付いた点があれば

教育委員会まで情報を寄せてもらいたい。

2 県政改革の具体的な取り組みの案について【総務部】

総務部から、県政改革の具体的な取り組み案について、資料を配布のうえ報告があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・9/22に検証委員会からの報告書の提出を受けた後、職員が萎縮することなく前向きに仕事をしていく環境を整備するため、知事を本部長とする県政改革推進本部を設置し、もう少し時間をかけて議論、検討をしていくこととした。
- ・推進本部は、県政改革を推進するためのアクションプラン策定と、プランのPDCAを所管する。検証し続ける趣旨から、終期は当面定めない。

【主な意見】

- ・推進本部を設置する必要があるのか。
知事、副知事、幹部職員のリーダーシップの下で、全庁挙げて組織的に取り組む必要がある。
- ・二度と起こさないことは当然のこととして、後ろ向きの県政ではなく、県民目線に立って、県政を推進していくという前向きのメッセージを出していくことも必要ではないか、ということ。（副知事）
- ・以前に比べ、職員が萎縮している、元気がない、というような、具体的な総括があるのか。
- ・「何もしない方がまし」というような雰囲気がないか。安全な予算や政策しか出てこないといった風潮になっていないか。県民のために思い切って予算（政策）を提案してくるような気概を職員に持たさなければならない。（副知事）
- ・失敗を過度に追及されないような仕組みが必要なのではないか。
- ・特定の部署だけで意思決定をせず、集団的、組織的な意思決定をする。トップがきちんと責任を取るという体制をつくることが必要で、担当職員は思い切って考えたら良い。（副知事）

3 その他

商工労働部から、11/22から県立美術館で開催される「モネの愛した浮世絵展」について広報があった。